

# 超高齢・人口減社会における 若者の地元定着の促進と若者の育成

## 「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業 （略称 COC プラス事業）」とは

地域のための大学として地域再生・活性化の拠点となる大学の形成に取り組んできた「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」\* を発展させ、地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するなど地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的とする事業です。

平成 27 年度の文部科学省の新規重点補助事業で、全国から 56 件の応募があり、42 件（参加大学数 256 大学）が採択されました。この事業は、地域における複数の大学の協働の取組が申請要件となっていることから、秋田大学を COC プラス大学（事業責任大学）とし、秋田県立大学と秋田工業高等専門学校を参加校とする事業計画で申請し採択されたものです。

この事業のテーマは、「超高齢・人口減社会における若者の地元定着の促進と若者の育成」であり、事業期間は平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 年間です。

\* 「地（知）の拠点整備事業（Center of Community）」とは

平成 25 年度の文部科学省の新規重点補助事業で、自治体等と連携し全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学等を支援することで地域再生・活性化の拠点となる大学の形成を目指すことを目的としております。

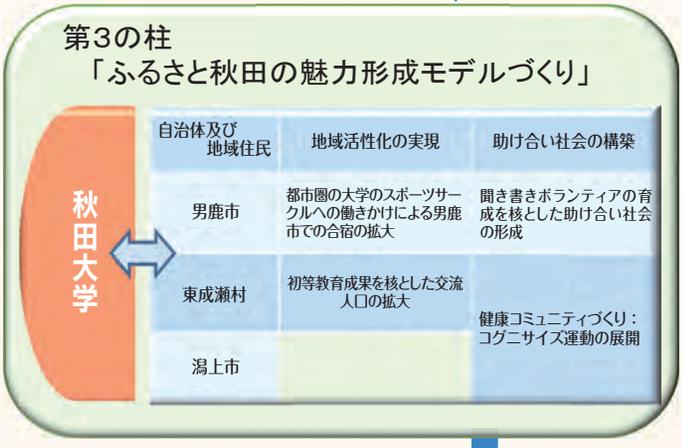
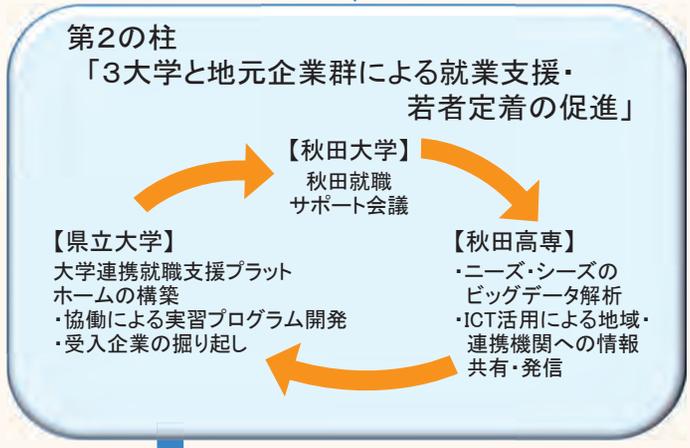
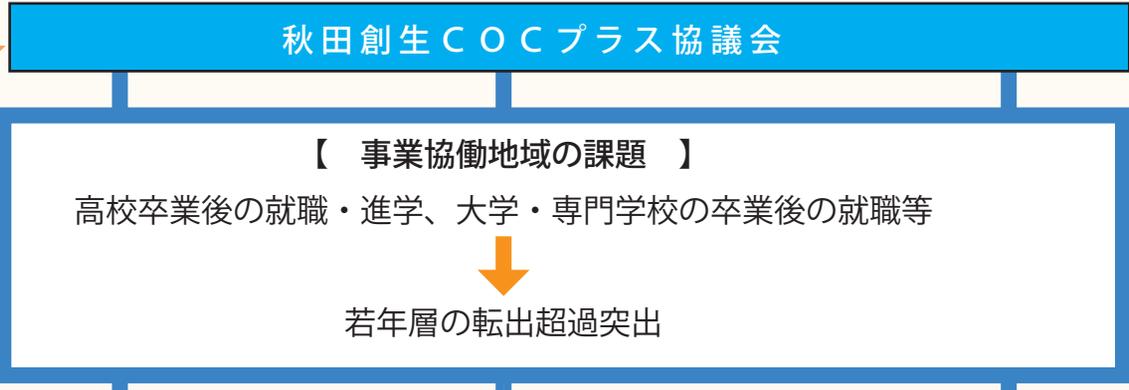
25 年度は、全国 342 の大学等が申請し、秋田大学は 56 の採択校の一つとして選定されました。

# COCプラスの概念図

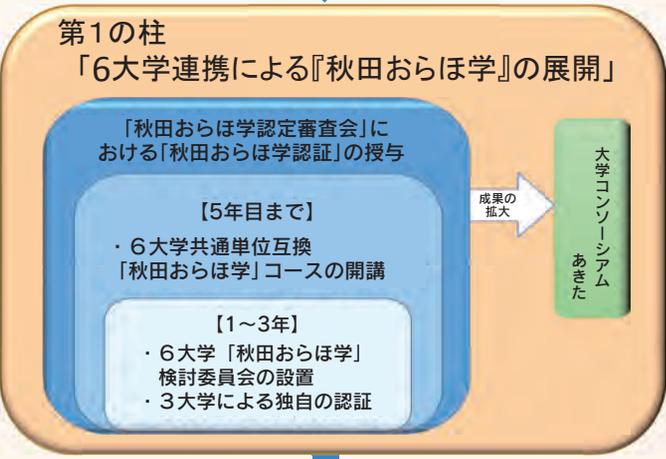
超高齢・人口減社会における若者の地元定着の促進と若者の育成

**COCプラス  
推進コーディネーター**

\*各取組の進捗管理  
\*事業改善意見の具申



教育プログラム開発委員会



就職希望の  
マッチング

秋田の魅力再認識による  
交流人口・定着人口の増加

地域アイデンティティを持つ  
学生の育成

**成果**  
5年間で学生の地元就職率10%アップ

## COCプラスの概要

本事業の目指すところは「超高齢・人口減社会における若者の地元定着と若者の育成」である。そのため、秋田県、県内商工団体や地元金融機関等のトップと3大学の学長・校長で組織される「秋田創生 COC プラス協議会」を設置する。雇用・就職に関する情報の共有化・取組の一元化等から始めて、地域が求める人材像の把握、最終的には、事業協働地域で掲げた目標値をクリアするための事業協働機関全体での取組が大きな役割である。

その具体的な取組内容として3つの柱がある。

第1の柱「6大学連携による『秋田おらほ学』の展開」、第2の柱「3大学と地元企業群による就業支援・若者定着の促進」、第3の柱「ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり」である。

なお、第1の柱「6大学連携による『秋田おらほ学』の展開」に反映させる具体的な教育プログラムの開発・構築は、「教育開発プログラム委員会」が担い、各事業協働機関の実務経験者から構成する。

### 第1の柱：6大学連携による

#### 『秋田おらほ学』の展開

##### 【秋田おらほ学の意義】

本取組では、「6大学の連携による『秋田おらほ学』の展開」を図る。若者の流出という問題を抱える現状を踏まえ、秋田という「地」のもつ魅力、そこでの仕事の意義や暮らしを伝える科目として『秋田おらほ学』を構築する。各大学の特徴に即し、秋田の自然や人、社会、文化、産業等に関する科目からなる教育カリキュラムを整備し、地域社会に貢献できる人材を育成する。

##### 【秋田おらほ学認証】

第1ステップとして、秋田大学COCプラス事務局がマネジメントを担い、「教育プログラム開発委員会」のもとに「6大学『秋田おらほ学』検討委員会」を設置し、大学間の連携や調整を図りながら、ふるさと秋田についての魅力を伝える体制を整える。

第2ステップとして、3大学の枠を越えて取得できる履修コースを整備し、県内企業の代表者等で構成される「秋田おらほ学認定審査会」を経て、キャリアパスとしての「秋田おらほ学認証」が授与される仕組みを構築する。この仕組みを「大学コンソーシアムあきた」に参加している大学への波及を目指す。

### 第2の柱：3大学と地元企業群による

#### 就業支援、若者定着の促進

○大学生等の地元定着の促進を図るため、秋田大学が全体のコーディネート機能を担いながら秋田県立大学及び秋田工業高等専門学校と協力し、3大学が県や経済団体・企業等と連携しつつ就職支援体制の強化を図るとともに、就職希望のマッチング機会の拡大を図ろうとするもの。具体的には各参加大学等が次のような事業を推進する。

- 秋田大学
  - ・自治体や経済団体を構成メンバーとする「秋田就職サポート会議」の設置
- 秋田県立大学
  - ・ジョブシャドウイング（観察型インターンシップ）の導入等によるインターンシップ制度の拡充
  - ・企業と大学の協働によるインターンシッププログラムの開発とノウハウの提供
  - ・3大学等と経済団体等との橋渡しとなるインターンシッププラットホーム機能の構築
- 秋田工業高等専門学校
  - ・県内外ニーズ・シーズ情報（ビッグデータ解析によるソリューション）を、人材育成（地方創生教育プログラム）と雇用創出に接続

これら一連の事業を推進することにより、秋田県が「あきた未来総合戦略」の中で5つの成長分野として位置づけている航空機・自動車関連産業や新エネルギー関連産業をはじめとする企業群等への就業を支援する。

### 第3の柱：ふるさと秋田の

#### 魅力形成モデルづくり

##### 【交流人口の拡大による地域活性化モデル】

現在、「学生がわが町に来てくれるだけで住民が元気になる」と、各自治体からの要請が相次いでいる。学生にとっては、地域を理解し、地域課題を把握し、地域住民と一緒に解決策を考え、実践するというキャリア形成につながっている。一方、地域にとっては地域の魅力再発見、そして新たな地域づくりへの意欲を喚起させるものとなっている。具体的には「学生スポーツ合宿を核とした交流人口の拡大」と、初等教育成果を活用した「首都圏大学教育実習誘致による交流人口の拡大モデル」を目指している。

##### 【助け合い社会の構築モデル】

地域住民の間で共助・共生が醸成され、高齢社会でも、住みよい・安心感のあるコミュニティの創生モデルを目指している。

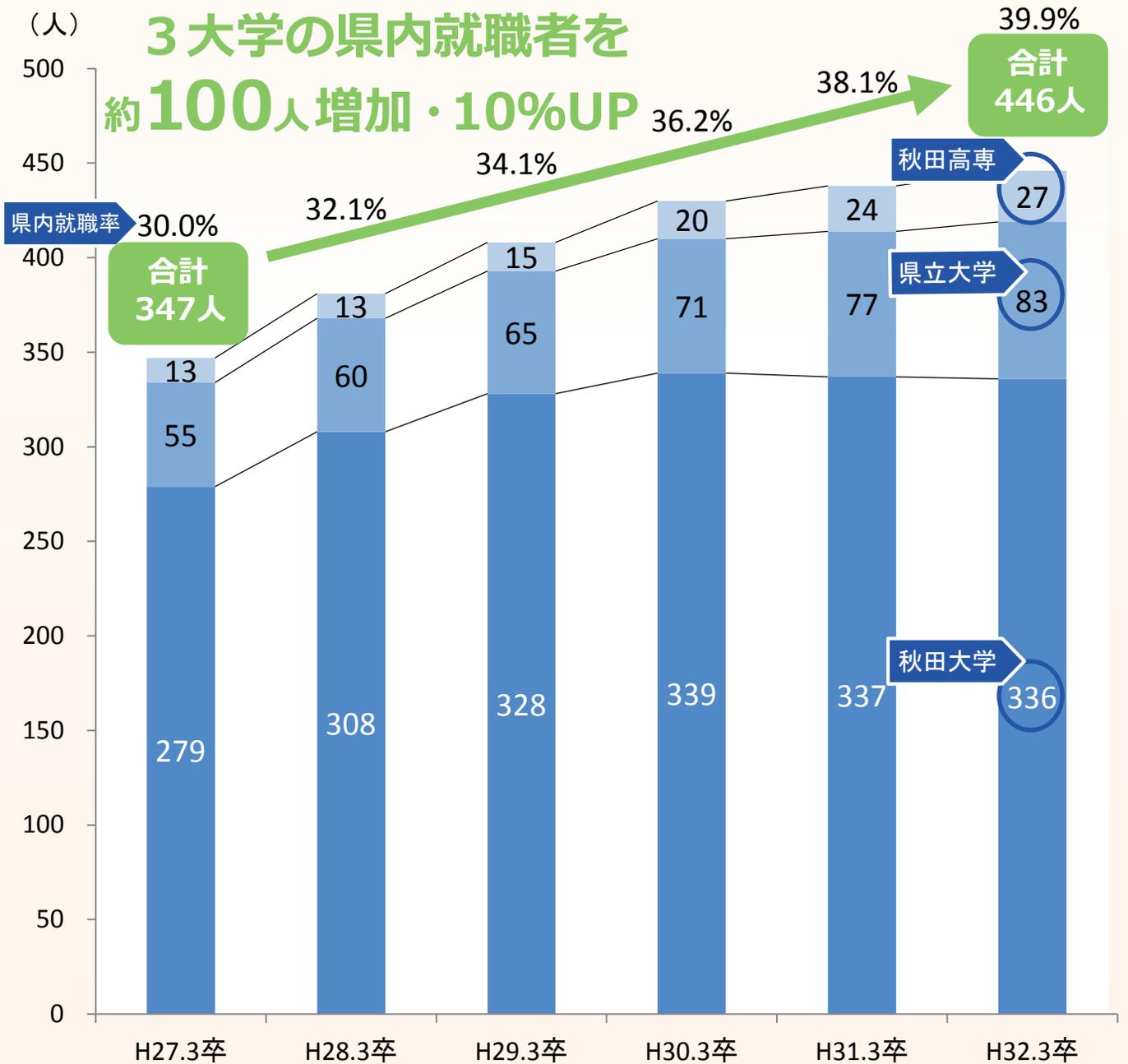
具体的には「聞き書きボランティア※1」の育成を核とした「助け合い社会の形成モデル」と「コグニサイズ運動※2」を取り入れた「健康コミュニティづくりモデル」である。

※1) 聞き書きボランティアとは、高齢者の話を聞いて、それを記録し、後世に残すとともに、この方法技術を通して様々なボランティアに活かすことをいう。高齢者からその土地の歴史や人生の足跡などを学ぶとともに、高齢者にとっては話すことで、話したことが活字という記録に残ることによって生きがいを感じるようになる。

※2) 国立長寿医療研究センターが考案した運動法で、コグニション（認知機能）とエクササイズ（運動）を組み合わせた造語。例えば、歩きながら計算するといった「有酸素運動+頭を使う作業」の組み合わせで、認知症予防の効果が期待できる。

# 目標値

## 県内就職率を5年間で10% UP!



# COCプラスの連携図



\*1 6大学（秋田大学・秋田県立大学・秋田工業高等専門学校・協力大学3校）

\*2 3大学（秋田大学・秋田県立大学・秋田工業高等専門学校）

【COCプラス大学】	秋田大学
【COCプラス参加大学】	秋田県立大学 秋田工業高等専門学校
【COCプラス協力大学】	国際教養大学 秋田公立美術大学 日本赤十字秋田看護大学
【事業協働機関】	秋田県 秋田商工会議所 秋田県商工会連合会 秋田県中小企業団体中央会 秋田県ふるさと定住機構 秋田銀行 北都銀行 秋田高専産学協会

## 【事務局】

### 秋田大学 COC プラス事務局

〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号

TEL:018-889-3246

FAX:018-889-3163

E-mail:coc-plus@jim-u.akita-u.ac.jp

### 秋田県立大学 地域連携・研究推進センター

〒010-0195 秋田市下新城中野字街道端西241番438号

TEL:018-872-1557

FAX:018-872-1673

E-mail:stic@akita-pu.ac.jp

### 秋田工業高等専門学校 COC + 事務局

〒011-8511 秋田市飯島文京町1番1号

TEL:018-874-6108

FAX:018-857-3191

E-mail:coop-edu@akita-nct.ac.jp